



# 2020年9月期第2四半期 決算説明資料

株式会社 EduLab  
東証マザーズ (4427.T)

2020年5月8日

*EduLab.*

---

第2四半期決算概況	2
2020年9月期第2四半期実績	3
新型コロナウイルス感染症の影響	9
2020年9月期通期見通し	11
事業トピックス①	13
事業トピックス②	15
事業トピックス③	19

## 1. 2020年9月期2Q決算概況

- 連結売上高 3,036百万円（前年同期比 17.3%増）
- 連結営業利益 197百万円（同 35.4%減）
- 連結経常利益 111百万円（同 17.6%減）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 50百万円（同 38.0%減）
  - EPS 5.77円

## 2. 2020年9月期2Qの事業動向

- 両セグメントとも売上、各利益ともに順調に推移し、上期想定を上回った。
- e-Testing/e-Learning事業では、英ナビ広告及び多教科プラットフォーム収入、CASEC、テストシステム提供等が順調に推移し増収（29.5%増）。
- テスト運営・受託事業は、売上・利益ともに対前年比ではマイナスであるものの、ほぼ想定通りの売上及び利益となった。
- 費用面で1Qに引き続き人件費・減価償却費・地代家賃等の固定費増加の影響で営業・経常・四半期純利益はそれぞれ▲35.4%、▲17.6%、▲38.0%となった。

## 3. 2020年9月期通期見通し

- 通期見通しは期初予想変更なし
  - 連結売上高 8,450百万円（前年比 34.7%増）
  - 連結営業利益 1,800百万円（同 23.1%増）
  - 連結経常利益 1,570百万円（同 31.8%増）
  - 親会社株主に帰属する当期純利益 1,110百万円（同 41.0%増）
- 令和2年全国学力・学習調査の中止の影響及び教育デジタルソリューションズ社の統合等の影響を加味した上で期初予想を維持
- 但し、新型コロナウイルス感染症による学校休校等の影響については引き続き注視

# 2020年9月期 第2四半期実績

## 損益計算書

(単位：百万円)

	19年9月期 2Q	20年9月期 2Q	対前年同期比
売上高	2,589	3,036	+ 17.3%
EBITDA	543	508	△ 6.4%
EBITDA率	21.0%	16.7%	△ 4.3pt
営業利益	305	197	△ 35.4%
営業利益率	11.8%	6.5%	△ 5.3pt
経常利益	134	111	△ 17.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	82	50	△ 38.0%

- **売上高**はe-Testing/e-Learning事業、テスト運営・受託事業の両セグメントともに順調に推移し、対前年同期比**17.3%増**となる**30.3億円**を達成
- 売上原価および販売管理費の増加を吸収できず、**営業利益**は**1.9億円**（前年同期比▲35.4%）、経常利益、当期純利益はそれぞれ1.1億円（前年同期比▲17.6%）、0.5億円（前年同期比▲38.0%）
- 1Qで発生した以下の先行費用については2Qまでに解消
  - 埼玉県の学力・学習状況調査事業で発生した先行費用
  - テストセンター事業における先行費用
- 費用の主な増加要因は以下の通り
  - 連結範囲拡大等を含む人員増、会社創立20周年に伴う特別賞与支給等による人件費の増加（対前年比約158百万円増加、約769百万円に着地）
  - 主にソフトウェア開発投資に伴う減価償却費の増加（対前年比約73百万円増加、約311百万円に着地）
  - 事務所移転に伴う地代家賃の増加等（対前年比約57百万円増加、約150百万円に着地）
  - 教育デジタルソリューションズ子会社化関連費用（34百万円）

## セグメント別の売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

事業セグメント	19年9月期 2Q	20年9月期 2Q	対前年同期比	
e-Testing/ e-Learning	売上高	1,580	2,046	+29.5%
	セグメント 損益	677	753	+11.1%
テスト運営 ・受託	売上高	1,008	990	△1.8%
	セグメント 損益	92	92	△0.7%
全社費用	△465.4	△648.2	182百万円 増加	

## ■ e-Testing/e-Learning事業

- 英ナビ！広告や多教科プラットフォーム利用収入、テストシステム提供等に伴うライセンス収入の増加が牽引し、**29.5%の増収**
- セグメント損益は、人件費増加、ソフトウェア開発に伴う減価償却費の増加（約54百万円増加し、約269百万円に着地）等があったものの**11.1%の増益**

## ■ テスト運営・受託事業

- 令和2年度全国学力・学習状況調査の準備業務、国立教育政策研究所の平成32年度経年変化分析調査の準備業務等の受託案件が貢献した。
- 当社想定通り売上及びセグメント利益は対前年比で微減

## ■ 全社費用

- 事務所移転に伴う地代家賃の増加、役員報酬の増加等

## サブセグメント別の売上高

(単位：百万円)

事業セグメント	サブセグメント	19年9月期 2Q	20年9月期 2Q	対前年同期比
e-Testing/ e-Learning	英ナビ・ スタディギ ア	876	1,017	+ 16.1%
	英検Jr.	114	113	△ 1.2%
	TEAP CBT	47	48	+ 1.5%
	CASEC	199	222	+ 11.3%
	テストシステム 提供等	341	644	+ 88.6%

### ■ 英ナビ・スタディギア

- 英ナビ！広告や多教科プラットフォーム利用収入の増加が売上拡大に貢献し増収
- ライセンス対象者数は若干の増加となったが、前年度発生していた一時収益の影響で、ライセンス料収益は対前年比で微減。4月以降、当初想定 of ライセンス料改定、メニュー追加による対象受験者増による収益増を見込む
- 3-4月に新型コロナウイルス感染症対策の無料教材として提供し2月末以降、約12.7万名の新規会員を獲得

### ■ 英検Jr.

- ペーパー版・オンライン版の英検Jr.の微減傾向が継続

### ■ TEAP CBT

- 受験申込者数は対前年比49.2%増加。これに伴い、スピーキング・ライティングテストの採点業務が増加し増収

### ■ CASEC

- 主に企業向け中心に受注・販売が拡大。2018年度より提供開始した「CASEC Speaking」「CASEC for Business」も順調に推移し増収

### ■ テストシステム提供等

- テストセンター事業、英検協会向け採点システム提供の順調な推移に伴いライセンス収入等が拡大し増収
- AIを活用した自動採点や文字認識サービス等の外部販売も拡大し増収に貢献（前年同期比102.3%増となる約128百万円）

## 営業外損益

(単位：百万円)

	19年9月期 2Q	20年9月期 2Q	対前年増減額
営業外収益	67	61	△ 6
為替差益	—	23	23
投資有価証券売却益	67	23	△ 43
その他	0.5	14	14
営業外費用	238	147	91
為替差損	35	—	35
投資有価証券評価損	27	28	△ 0
ファンド運営費	65	56	8
株式公開費用	34	—	34
融資・借換関連費用	18	25	△ 7
支払利息	18	17	△ 0
その他	38	18	20

■ 2Q中の主な変動は、為替変動による為替差損益や、投資有価証券売却益、投資有価証券評価損など

- 為替差損益は前年同期に35百万円の為替差損を計上したが、今期2Qは円安基調のため23百万円の為替差益となった
- 投資有価証券売却益は、Authessの売却益23百万円を実現
- 投資有価証券評価損は、28百万円を計上
  - ListenWise (21百万円)
  - TOPICA (6百万円)



(単位：百万円)

	2019年 9月末	2020年 3月末	増減額
<b>流動資産</b>	<b>9,159</b>	<b>8,854</b>	<b>△ 305</b>
現預金	6,179	6,414	+ 235
その他	2,980	2,440	△ 540
<b>固定資産</b>	<b>3,679</b>	<b>4,366</b>	<b>+ 687</b>
ソフトウェア	2,054	2,453	+ 398
投資有価証券等	703	751	+ 48
その他	921	1,161	+ 240
<b>繰延資産</b>	<b>14</b>	<b>10</b>	<b>△ 3</b>
<b>資産 合計</b>	<b>12,853</b>	<b>13,232</b>	<b>+ 378</b>
<b>流動負債</b>	<b>4,499</b>	<b>4,583</b>	<b>+ 83</b>
有利子負債	3,360	3,702	+ 342
その他	1,139	880	△ 259
<b>固定負債</b>	<b>1,562</b>	<b>2,083</b>	<b>+ 521</b>
有利子負債	1,526	2,055	+ 529
その他	35	28	△ 7
<b>負債 計</b>	<b>6,061</b>	<b>6,667</b>	<b>+ 605</b>
<b>純資産 計</b>	<b>6,792</b>	<b>6,564</b>	<b>△ 227</b>
<b>負債純資産 合計</b>	<b>12,853</b>	<b>13,232</b>	<b>+ 378</b>

- 受取手形及び売掛金、ならびに仕掛品が減少したこと等により、流動資産は305百万円減少
- 固定資産は前連結会計年度末より687百万円増加。主な内訳はソフトウェア等で約398百万円、テストセンター関連で約2.2億円（内、敷金約0.9億円）
- テストセンター事業を始め、今後の成長を見据えた資金調達を前広に行ったことから、有利子負債合計は870百万円増加
- 上記を受け現預金残高は対前期末で235百万円増加。景況観の不透明さが増していることを受け、今後も手元資金を集めに確保していく予定

# 新型コロナウイルス感染症の影響

- 2Q決算について特段の影響見られず

- 3Q以降で考えられる影響は以下の通り

- **テスト運営・受託事業**

令和2年度全国学力・学習状況調査の中止（確定）

- ✓ 準備作業が3月までに相当進捗していたため、当期業績に与える影響は軽微の見込み

他の受託案件

- ✓ 延期・中止の両方の可能性があるが、単体で業績修正を必要とするほどのインパクトのあるプロジェクトはない見込み

- **e-Testing/e-Learning事業**

英検関連／テストセンター

- ✓ 英検の実施スケジュールへの影響を注視しながら今期業績への影響を見極めているところ

- ✓ テストセンターについては開始が約2ヶ月後れる見込み

- ✓ 現在のところ今期中に挽回可能な後れと見ており、当期業績に与える影響は軽微と判断

英ナビ広告関連

- ✓ 3～4月の広告出稿は減速

- ✓ クライアントの広告予算も未消化と見ており3～4Qで挽回可能か注視

AI関連プロジェクト

- ✓ いくつかのプロジェクトについて、完了時期が翌年度にずれ込む可能性が発生しているが、単体で業績修正を必要とするほどのインパクトのあるプロジェクトはない見込み

- 現在まで確定している状況下では業績見直し修正の必要はないと考えているが、今後の推移を見ながら必要な場合適時に開示する予定

# 2020年9月期 通期見通し

（単位：百万円）

	20年9月期 2Q (実)	20年9月期通期 (予)
売上高	3,036	8,450
営業利益	197	1,800
営業利益率	6.5%	21.3%
経常利益	111	1,570
親会社株主に帰属する 当期純利益	50	1,110

- 2Qについては当期予想どおり推移しており、令和2年全国学力・学習調査の中止の影響及び教育デジタルソリューションズ社の統合等の影響を加味した上で**通期業績予想については変更なし**
- 但し、新型コロナウイルス感染症による学校休校等の影響については引き続き注視

# 事業トピックス①

## テストセンター事業

## 英検「S-CBT」（4技能1日完結）及び「英検CBT」のテストセンター型受験 緊急事態宣言期間を考慮しつつ、6月から開始見込み

### ■ 余剰席数の削減

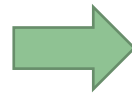
- 申込状況を勘案し、余剰席数（日程、時間帯）を削減
- 4-5月中止に伴い、6月以降への受験者振替に伴い、稼働率向上

### ■ 直営会場の追加出店加速

- 大規模都市に加え、既存のテストセンター事業者がおらず、受験申込者が多いローカルエリアに50席未満の小規模テストセンターを開設

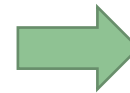
当初20年度計画

1～3拠点



現時点

11拠点



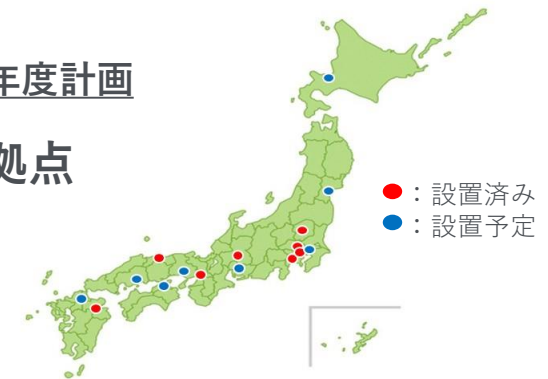
当初24年度計画

17拠点

- 他の検定及び既存PBTのCBT化の引合増加

### ■ 新型コロナウイルス感染予防対策の準備

- 試験監督者及び受験者の健康要件（海外渡航歴、体温、体調不良等）の確認
- 受験者の手指消毒剤の利用、試験間の消毒剤を使用した清掃、換気、等

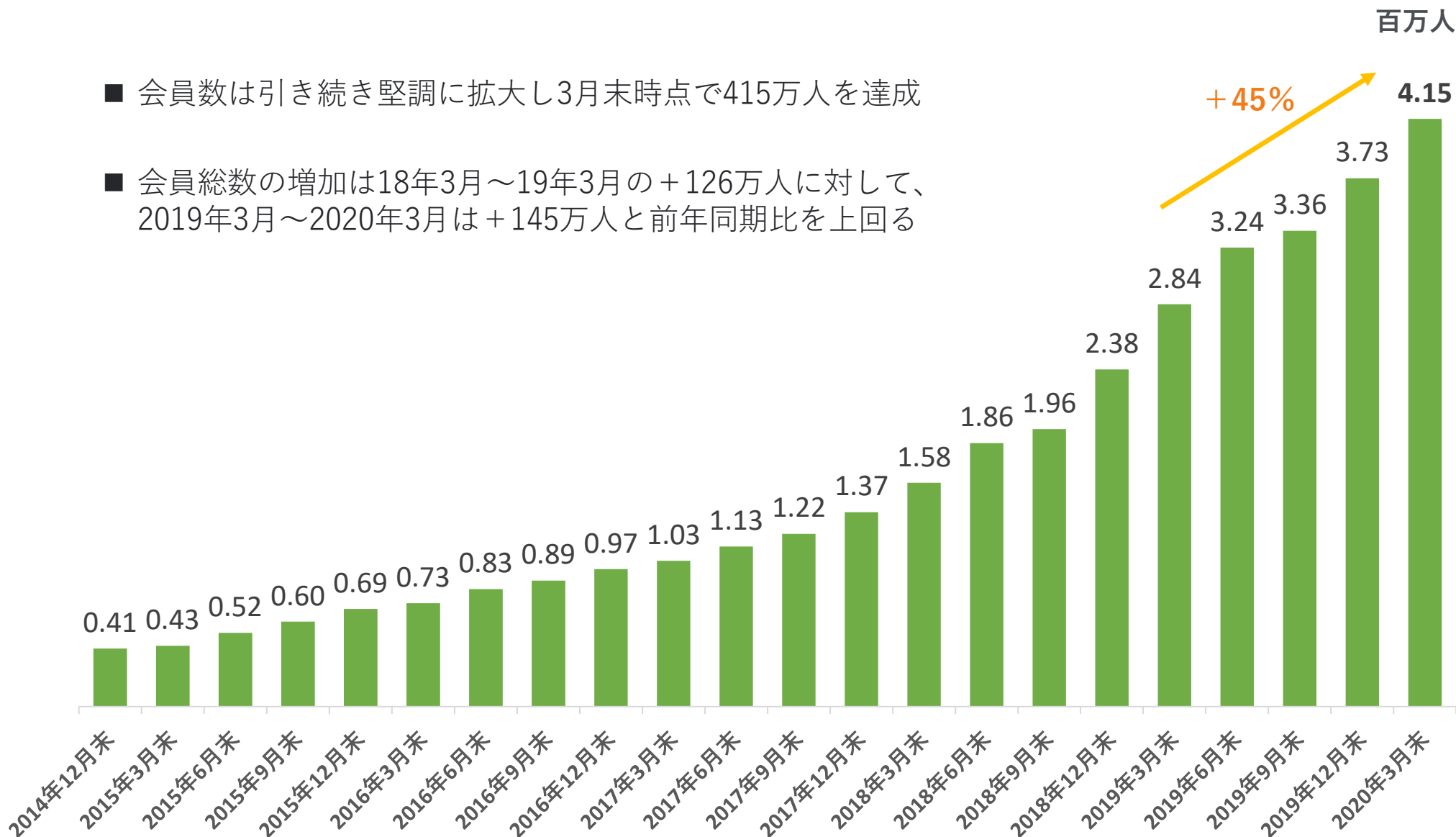


# 事業トピックス② プラットフォーム事業



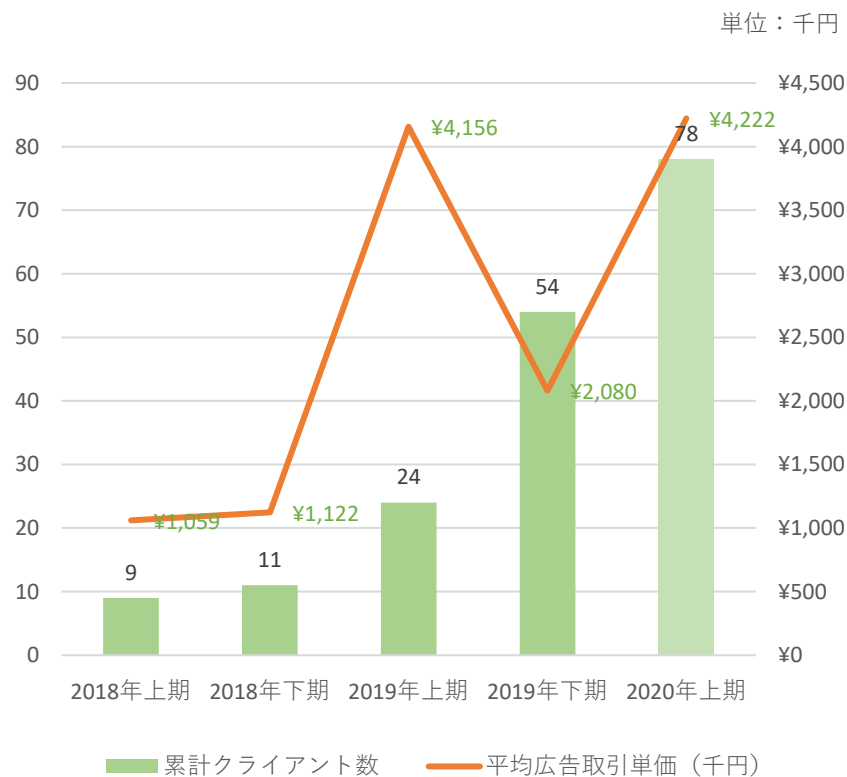
# 重要KPI：登録会員数

- 会員数は引き続き堅調に拡大し3月末時点で415万人を達成
- 会員総数の増加は18年3月～19年3月の+126万人に対して、2019年3月～2020年3月は+145万人と前年同期比を上回る



## 累計クライアント数と広告平均取引単価

- 地域、年齢、性別など、メディア属性情報の信頼度の高さが評価され、塾／予備校、通信教育、大学を中心にクライアント数が増加。
- 好調な会員数の増加を背景にクライアント数及び取引単価も順調に増加



## 事業の進捗

### 株式会社教育デジタルソリューションズの子会社化

- 大学入試広報市場の開拓を本格化
  - ✓ 詳細は次ページに記載

### 新サービスのリリース

- 通える塾の簡単見学予約サイト「塾ピタ」
  - ✓ 2020年3月31日β版をリリース
  - ✓ 2020年夏を目処に正式版をリリース予定



- 中学生向け、アニメで学ぶオンライン数学学習サービス「数学者を召喚したらイケメンだった」
  - ✓ 2020年4月15日リリース
  - ✓ 月額600円のeラーニング・サービス



簡易株式交換による株式会社教育デジタルソリューションズの完全子会社化を実施

## ■ 株式会社教育デジタルソリューションズについて

- 売上高：1,781百万円、営業利益：78百万円、当期純利益：42百万円（2020年3月期）
- 当期の貢献：売上高で約300百万円、**営業利益で約40百万円**（のれん償却（\*）を含む）、約49百万円の段階取得による差益により、**当期利益で約60百万円を見込む**（2020年9月期）  
（\*）のれんの金額、償却費は確定していないため、今後変更となる可能性がございます
- 事業内容：国内最大規模の大学受験情報サービス「大学受験パスナビ」を旺文社と共同運営。大学入試広報領域におけるメディア事業に大きな強みを持つ

## ■ 子会社化によるシナジー効果

- 「大学受験パスナビ」を活用した大学入試広報へのリーチを強化しメディア事業を強化
- 当社プラットフォーム会員415万人のデータベースと、AIレコメンドエンジン「CAERA」を掛け合わせ付加価値の高いサービスを創出



# 事業トピックス③

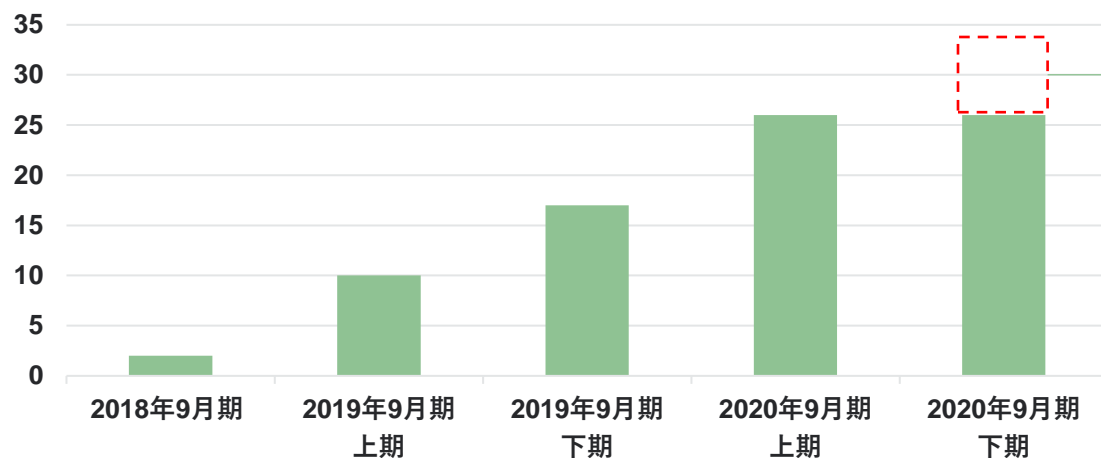
## AI関連事業

前期に引き続き、複数のプロジェクトにてDEEP READが本格稼働  
 トライアルから着実に運用フェーズへの移行が加速  
 無償トライアルも実施中だが、有償トライアル・案件数も着実に増加

## ■ 延べ案件数の推移

有償案件数		2018年9月期	2019年9月期	2020年度(2Qまで)
有償案件数	本格稼働案件数 (ランニングで売上)	2	17	26
	トライアル・カスタマイズ 等案件数 (スポットで売上)	6	24	37
無償案件数	トライアル実施数	44	94	152

## ■ 半期ごとの稼働案件数の推移



凡そ3か月~半年間の期間をかけ、  
 無償トライアル案件は**約50%程度**  
**案件が有償案件化へ**

代理店や連携サービスによる案件の  
 拡大が順調に推移中

2020年度下期中に、前年度比  
 200%の稼働案件数をを目指す

- 本資料は、株式会社**EduLab**の業績等について、株式会社**EduLab**による現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社**EduLab**の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、本資料開示時点（2020年5月8日現在）において利用可能な情報に基づいて株式会社**EduLab**によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。